

# 交 通

## 1 概要

京都市の公営交通事業は、市域を東西南北に貫く交通の大動脈である地下鉄と、市内にきめ細かに張り巡らせた市バス路線とのネットワークにより、安心・安全で市民の皆様の生活に欠くことのできない身近な公共交通機関として、また、京都を訪れる方々の便利な交通手段として多様な都市活動を支えとともに、本市の重要政策である、ひとと公共交通優先の「歩くまち・京都」を牽引する公共交通機関として、重要な役割を担っています。

明治45年に市電（軌道事業）、昭和3年には市バス（自動車運送事業）の営業を開始し、昭和27年から地方公営企業法の適用を受け、市民の足として活躍してきました。

しかし、昭和30年代後半からのモータリゼーション等による急激な環境の変化により、市電のお客様が漸減し、財政状況が年々悪化したことから、交通事業再建計画を策定・推進する中で、昭和53年9月末をもって市電を全廃、路面交通を市バスに一元化するなど経営の再建に取り組みました。一方、本市交通の基幹となる輸送手段として、昭和56年5月に地下鉄（高速鉄道事業）烏丸線を北大路・京都間で開業させ、以降、順次路線を延伸し、平成9年10月に東西線を開業、平成20年1月の東西線二条・太秦天神川間の延伸により、今日の広域的な鉄道ネットワークを形成しました。

かつて危機的な経営状況にあった市バス・地下鉄事業は、数次にわたる経営健全化の取組により、経費削減と大幅なお客様数の増加で着実に経営改善を図ってきました。

平成31年3月には、令和元年度から10年間の経営の基本的な方針や具体的取組について取りまとめた「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」（以下、「経営ビジョン」）を策定し、安定経営への道を歩み始めました。

しかし、令和2年2月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、経営環境が激変し、両事業とも、かつてない危機的な経営状況に陥り、このままでは将来にわたって両事業の経営が維持できないとの認識のもと、経営ビジョンに掲げた事業運営の基本的な方針は引き継ぎつつ、安定経営に向けた中

長期の経営計画として、財政面での計画を中心に見直した「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン【改訂版】（2021-2028）」（以下、「経営ビジョン【改訂版】」）を令和4年3月に策定しました。

「経営ビジョン【改訂版】」では、市バス・地下鉄ともに、運賃改定を見込めざるを得ない状況にありましたが、お客様数の回復、国の支援、更に「なりふり構わない経営改善」の取組の効果もあって、両事業ともに運賃改定を回避しました。

令和7年度の市バス・地下鉄の状況は、定期（通勤・通学）や観光客等による定期外の御利用が増加し、年間を通じたお客様数は、両事業ともに前年度を上回りました。コロナ禍前との比較では、市バスは回復基調にあるもののわずかにマイナス、地下鉄はコロナ禍前の水準を上回り、過去最高となった前年度を上回りました。また、運賃収入は、両事業ともお客様数の回復等により、前年度及びコロナ禍前を上回りました。さらに、地下鉄については過去最高となった前年度を上回りました。一方、交通局を取り巻く経営環境は、担い手確保に向けた処遇改善のための人件費の増加や、燃料費など物価高騰、さらには車両・設備の老朽化対策など、厳しい状況が続いています。

そのような状況においても、令和8年度は、引き続き、担い手確保に向けた処遇改善や採用活動に積極的に取り組みます。また、市民生活と観光の調和・両立を図るため、「市バスの市民優先価格」の実現に向けた取組のほか、均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手、輸送力の効率的な配分や、地下鉄をはじめとする鉄道を活かした移動経路の分散など、引き続き市バスの混雑対策等に取り組みます。さらに、経営環境が大きく変化している今、従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定してまいります。

市バス・地下鉄事業が、市民生活と多様な都市活動を支える役割を果たし、持続可能で安全かつ満足度の高い公営交通となるよう、引き続き、緊張感を持って公営企業経営に取り組みます。

## 2 自動車運送事業

### (1) 営業設備

(8.7.1 現在)

|                             |                             |                 |             |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------|-------------|
| 路<br><br><br>線              | 営 業 路 線                     |                 | 321.93km    |
|                             | 停 留 所 数                     |                 | 713 箇所      |
|                             | 運 転 系 統 数                   |                 | 84 系統       |
| 車<br><br><br>両<br><br><br>等 | 在 籍 車 両 数                   |                 | 810 両       |
|                             | う                           | ち 低 床 車         | 810 両       |
|                             |                             | ノ ン ス テ ッ プ バ ス | 794 両       |
|                             |                             | ワ ン ス テ ッ プ バ ス | 16 両        |
|                             | う ち ア イ ド リ ン グ ス ト ッ プ バ ス |                 | 808 両       |
|                             | う ち ハ イ ブ リ ッ ド バ ス         |                 | 59 両        |
|                             | う ち ラ ッ シ ュ 型 車 両           |                 | 545 両       |
|                             | う ち 電 気 バ ス                 |                 | 2 両         |
| 事 業 所 等                     | 営 業 所 等                     |                 | 6 営業所 1 出張所 |
|                             | 車 両 工 場                     |                 | 1 工場        |
|                             | 案 内 所                       |                 | 5 案内所       |

### (2) 旅客数 (1 日平均)

|                  | R3  | R4  | R5  | R6  | R7  |
|------------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 旅 客 数<br>( 千 人 ) | 268 | 309 | 333 | 340 | 346 |

### (3) 運賃

(8.7.1 現在)

| 乗車券の種類        |            | 運賃 (円)      |                                 |
|---------------|------------|-------------|---------------------------------|
| 片道乗車券         | 大人         | 230         |                                 |
|               | 小児         | 120         |                                 |
| 特定割引普通券       | 大人         | 120         |                                 |
|               | 小児         | 60          |                                 |
| 回数券           | 特定割引       | 10円券 21枚つづり |                                 |
|               | 京都市域<br>共通 | 普通          | 230円券 4枚及び                      |
|               |            |             | 180円券 1枚つづり 1,000               |
|               |            |             | 230円券 24枚つづり 5,000              |
|               |            |             | 80円券～270円券 各々11枚つづり<br>10枚相当運賃額 |
| 地下鉄・<br>バス一日券 | 大人         | 1,100       |                                 |
|               | 小児         | 550         |                                 |

注 地下鉄・バス一日券は、市バス、地下鉄の全路線及び京都バス、京阪バス、西日本ＪＲバスの一部区間が利用可能な共通乗車券である。

### (4) 財政状況

令和７年度決算における年間を通じたお客様数は、定期（通勤・通学）や観光客等による定期外の御利用が増加したことで、前年度から６千人の増となる３４万６千人（＋２．０％）となりました。

収益の大部分を占める運賃収入は、お客様数の回復等により、前年度及びコロナ禍前の令和元年度を上回る２１３億円（税抜、(4)において以下同じ。）となりました。

これにより、経常損益は、担い手確保に向けた処遇改善のための人件費や燃料費など物価の高騰による支出が増加するなか、９億円の黒字と３年連続となる黒字決算となりましたが、２年連続で黒字幅は減少しました。

令和７年度においては、車両・設備の老朽化対策をはじめ処遇改善のための人件費や委託料の増加、軽油価格の高騰による支出の増加など、引き続き厳しい経営状況ではありますが、前乗り後降り方式の導入着手やリアルタイ

ム運行情報の発信強化などを推進しました。

今後も、交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」の取組に加え、市バスの市民優先価格の実現や混雑対策による市民生活と観光の調和・両立に向けた取組、将来を見据えた経営戦略の推進など、市バスが持続可能で安全かつ満足度の高いものとなるよう、安全対策と経営改善、利便性向上を図ってまいります。

### 3 高速鉄道事業

#### (1) 営業設備等

##### ア 烏丸線

(8.7.1 現在)

|        |    |        |      |        |          |
|--------|----|--------|------|--------|----------|
| 営業路線キロ |    | 13.7km | 列車編成 |        | 6両       |
| 運転系統数  |    | 1系統    | 運転間隔 | 朝ラッシュ時 | 3分～4分    |
| 駅数     |    | 15駅    |      | 夕ラッシュ時 | 5分       |
| 駅間距離   | 最長 | 1.6km  |      | 昼時間    | 7分30秒    |
|        | 最短 | 0.7km  | 表定時分 |        | 27分30秒   |
|        | 平均 | 1.0km  | 表定速度 |        | 29.9km/h |

##### イ 東西線

(8.7.1 現在)

|        |    |        |      |        |          |
|--------|----|--------|------|--------|----------|
| 営業路線キロ |    | 17.5km | 列車編成 |        | 6両       |
| 運転系統数  |    | 3系統    | 運転間隔 | 朝ラッシュ時 | 4分～6分30秒 |
| 駅数     |    | 17駅    |      | 夕ラッシュ時 | 7分～8分    |
| 駅間距離   | 最長 | 1.8km  |      | 昼時間    | 7分30秒    |
|        | 最短 | 0.5km  | 表定時分 |        | 34分30秒   |
|        | 平均 | 1.1km  | 表定速度 |        | 30.4km/h |

## (2) 旅客数（1日平均）

|             | R3  | R4  | R5  | R6  | R7  |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 旅客数<br>（千人） | 295 | 348 | 385 | 402 | 416 |

## (3) 運賃

（8.7.1 現在）

| 乗車券の種類              |    | 運賃（円）         |                         |                          |                           |                        |
|---------------------|----|---------------|-------------------------|--------------------------|---------------------------|------------------------|
|                     |    | 1区<br>(3kmまで) | 2区<br>(3kmを超え<br>7kmまで) | 3区<br>(7kmを超え<br>11kmまで) | 4区<br>(11kmを超え<br>15kmまで) | 5区<br>(15kmを超え<br>る区間) |
| 普通券                 | 大人 | 220           | 260                     | 290                      | 330                       | 360                    |
|                     | 小児 | 110           | 130                     | 150                      | 170                       | 180                    |
| 特定割引普通券             | 大人 | 110           | 130                     | 150                      | 170                       | 180                    |
|                     | 小児 | 60            | 70                      | 80                       | 90                        | 90                     |
| 回数券<br>(11枚つづり)     | 大人 | 2,200         | 2,600                   | 2,900                    | 3,300                     | 3,600                  |
|                     | 小児 | 1,100         | 1,300                   | 1,500                    | 1,700                     | 1,800                  |
| 特定割引回数券<br>(11枚つづり) | 大人 | 1,100         | 1,300                   | 1,500                    | 1,700                     | 1,800                  |
|                     | 小児 | 600           | 700                     | 800                      | 900                       | 900                    |
| 団体券<br>(25人以上の団体)   | 普通 | 10%割引         |                         |                          |                           |                        |
|                     | 学生 | 20%割引         |                         |                          |                           |                        |
| 地下鉄一日券              | 大人 | 800           |                         |                          |                           |                        |
|                     | 小児 | 400           |                         |                          |                           |                        |
| 地下鉄・バス一日券           | 大人 | 1,100         |                         |                          |                           |                        |
|                     | 小児 | 550           |                         |                          |                           |                        |

注1 地下鉄・バス一日券は、市バス、地下鉄の全路線及び京都バス、京阪バス、西日本JRバスの一部区間が利用可能な共通乗車券である。

2 下記の表の本市烏丸線各駅と近畿日本鉄道京都線各駅相互間を普通券又は IC カード（特別割引用 IC カードを除く。）で乗車する場合には、本市運賃から大人 10 円、小児 5 円又は 10 円を割引く。

| 割引対象区間  |     |          | 大人割引額（小児） |      |
|---------|-----|----------|-----------|------|
| 本市烏丸線   | 接続駅 | 近鉄京都線    |           |      |
| 九条～くいな橋 | 竹田  | 伏見～桃山御陵前 | 10        | (5)  |
|         |     | 向島       | 10        | (10) |
| 京都      |     | 伏見～向島    | 10        | (10) |

3 下記の表の本市東西線各駅と京阪電気鉄道京津線各駅相互間を普通券又は IC カード（特別割引用 IC カードを除く）で乗車する場合には、本市運賃から大人 60 円又は 50 円、小児 25 円又は 20 円を割引く。

| 割引対象区間 |     |             | 大人割引額（小児） |      |
|--------|-----|-------------|-----------|------|
| 本市東西線  | 接続駅 | 京阪京津線       |           |      |
| 東山・蹴上  | 御陵  | 京阪山科～大谷     | 60        | (25) |
|        |     | 上栄町・びわ湖浜大津  | 50        | (20) |
| 三条京阪   |     | 京阪山科～びわ湖浜大津 | 50        | (20) |

#### (4) 財政状況

令和 7 年度決算における年間を通じたお客様数は、定期（通勤・通学）や観光客等による定期外の御利用が増加したことで、前年度から 1 万 4 千人の増となる 41 万 6 千人（+3.4%）となり、過去最高となった前年度を上回りました。

収益の大部分を占める運賃収入は、お客様数の回復等により、過去最高となった前年度を上回る 272 億円（税抜、(4)において以下同じ。）となりました。

これにより、経常損益は、物価の高騰による修繕費や委託料等の支出が増加するなか、お客様数の回復や電気料金等の落ち着きなどもあり、32 億円の黒字と 3 年連続となる黒字決算となりました。

令和 7 年度においては、この間着実に減少させてきていますが、いまだ 3

千億円近い企業債残高を抱えるなど、引き続き厳しい経営状況ではありますが、財政収支に留意したうえで、地下鉄烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置や駅トイレのアップグレードなどを推進しました。

今後も、交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」に向けて、引き続き、地下鉄烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置や地下鉄駅へのエレベーター増設に向けた検討の着手等の利便性向上の取組、将来を見据えた経営戦略の推進など、地下鉄が持続可能で安全かつ満足度の高いものとなるよう、安全対策と経営改善、利便性向上を図ってまいります。